

天沼小だより

校長 大里 忠弘



桐生おはなしの学校特別授業

11月17日(水)、1年生、2年生を対象に大型絵本の読み聞かせ授業がありました。桐生市立図書館の事業で、「桐生に伝わる民話を聞こう」というイベントの一環です。桐生市内のNPO法人桐生おはなしの学校からお二人の読み手の方が、大きな絵本を携えて本校の体育館に来てくださいました。第2校時に1年生、第3校時に2年生の子どもたちが桐生に伝わる民話の読み聞かせを楽しみました。



大型絵本というより、昔懐かしい大型の紙芝居でした。画面を食い入るように見つめ、読み手の声に耳を澄ませる子どもたちの顔は真剣そのものでした。「お話を聞く態度が素晴らしい」と、お二人からはお褒めの言葉もいただきました。



先週の天沼小だより27号では、本の読み聞かせについて取り上げましたが、私自身3人の子を育てました。子供が幼い頃、「絵本の読み聞かせは子どもを読書好きにする」という絵本販売業者のセールス文句を真に受け、絵本のセットを買ってしまいました。結構な金額でしたので無駄にしてなるものかと、親として絵本の読み聞かせを頑張りました。子どもたちは皆成人しましたが、今でもよく本を読んでいます。業者の言っていたセールス文句は、我が家では偽りでなかったようです。

テレビにとどまらず、パソコンやスマホの普及が進み、子どもたちが紙の本に触れる機会が少なくなってきています。デジタル書籍などは、保管に場所をとらず、重くもないので大変便利だそうですが、液晶画面から入る文字刺激と、紙の上の文字を読むのとでは脳の活動に差があるという記事を読んで、紙の本に抱きたい私はもう古いのでしょうか。

情報モラル講習会



11月18日(木)6年生対象に情報モラル講習会が行われました。インターネット、スマートフォンの普及が進み、小学生もネット社会に触れる機会が増えています。学校の教育活動でもタブレットの活用が進んでいる今日、健全なネット利用をするための知識も大切になります。天沼小学校では、6年生の親子を対象にこの講習会を毎年開催しています。今年も、NPO法人「ぐんま子どもセーフネット活動委員会」の丸山道慶様から、ネット社会に潜む危険や、自分の身の守り方、正しいネット情報との付き合い方などについて細かく教えていただきました。

残念ながら、社会には良からぬことを企む人もいるのが現実です。子どもを守るのは大人の責務として、子どもたちに寄り添う意識を大切にしていきたいと思います。